

令和7年度第2回生駒市行政改革推進委員会 会議録

開催日時 令和7年7月2日（水） 午前9時30分～午前10時36分

開催場所 生駒市役所 4階 大会議室

出席者

（委員） 森委員長、松岡副委員長、清水委員、松山委員、林委員

（事務局） 井上経営企画部長、牧井企画政策課長、粉家企画政策課主幹
北野企画政策課行政経営係長、竹井企画政策課行政経営係係員
北廣企画政策課行政経営係係員

傍聴者 1名

欠席者

（委員） 森岡委員、中田委員、中西委員

1 開会

（事務局） 【挨拶】

2 案件

令和6年度行政改革大綱検証結果報告について

（事務局） 【令和6年度行政改革大綱検証結果報告書（案）について説明】

（委員長） 質問、意見等ないか。

（委員） アクションプランの担当課における自己評価について、一部担当課と委員間で認識のズレがあった。本来は、自己評価に基づいて、今後の取組方針を審議する目的があるはず。シート作成時の周知方法について気になった。

（委員長） 審議したことのフィードバックは行われているのか。

（事務局） 今回いただいたご意見についてはフィードバックを行ったうえ、次年度アクションプラン策定ヒアリングの際に担当課に考えを聞く予定である。

（委員） アクションプラン事業評価シートについて行革評価の4つの項目とKPIの関係が見えてこない。KPIは最終目標に向かって段階的に進めるための目安とする指標のため、単年度の表記のみでは評価が難しい。

（事務局） アクションプランは総合計画に基づいているので、KPIの考え方も行革の視点とは差がある。事業評価シートの様式を見直して、先のKPI指標まで示すことは可能。

（委員長） 部会の審議の中でも長期的に見なければならぬ事業もあった。先の指標もあったほうが短期的な欠点を長期的な視点で補える。

（委員） フィードバックも兼ねて今回の検証がどのように機能しているかを示して欲しい。

（事務局） アクションプラン策定ヒアリングの際に担当課の方針を聞く予定のため、その結果のフィードバックを委員会にする。

（委員） 検証結果報告書の評価にあたっての主な意見の中に担当課において適切な評価が行え

ていないことで、必要以上に低評価となっていると記載があるが委員会で審議する前に事務局で整理することはできないか。

(事務局) 担当課と事務局で評価にあたっての意識統一は必要と考える。次年度以降どうするか検討する。

(委員長) 今回行政改革大綱の検証で横串を刺したことは重要な意味を持っている。良い取り組みについては全体を通じてスタンダード化することは組織として重要。例えば多様な主体との協創やデジタルの活用は部署関係なく取り組まないと本当の意味での公共サービスの創造的な改善は起こりにくい。

令和6年度行政改革大綱検証結果報告書については一部加筆し成案とした上で答申とさせていただきます。

3 諮問

(事務局) 【施設使用料の見直しについて説明】

(委員長) 今回、施設使用料見直しの諮問にあたっての大きな背景としては物価高騰であり、指定管理料が増加している。指定管理事業者の努力も必要だけれども施設利用者の負担を上げていくというのも当然の考え。見直し対象の施設及び見直し内容について審議して欲しいとのこと。

意見や必要資料等はないか。

(委員) 実際現場でマネジメントしている指定管理事業者のアイデアや御意見も伺いたい。

(委員) 所得に応じて施設利用料を減免することは可能か。

(事務局) 団体で利用されるケースが多く所得の確認が困難。

ファシリティマネジメントとの整合等の関係から次回見直し対象施設を提示させていただく。

(委員) 見直し期間は。

(事務局) 今のところ定めていない。

(委員長) 料金設定について市民の感覚は大事。料金が高いことによる利用控えが生じると施設が稼働しなくなる。

(委員) 近隣市町村の利用料も比較しないと遠くても利用料が安い市の施設を利用する。他の自治体は協定を結んで利用料を同じにしているところもある。

(委員) 市内在住者と市外在住者で利用料の差はあるか。

(事務局) ある。周辺自治体も基本的には市内利用者、市外利用者で差をつけている。

(委員長) その他必要資料等あれば事務局に申し出てほしい。

4 その他

(事務局) 【答申のお礼】

5 閉会